

身近なことから 考えてみるのが大事です



エアコンの効いた部屋で、テレビを観ながら温かいご飯を食べる。いまの私たちは何の不自由もなく暮らしています。しかし、一方で、そのテレビからは「いま、私たちの住む地球が大変なことになっている」というニュースが流れてきます。地球環境が壊れてしまったら、便利な暮らしどころではありません。そこで、今月は、いま一度、便利な生活を顧みて、私たちが環境のためにできることを榊原典子先生にお話しいただきました。



榊原典子（さかきばら・のりこ）先生
京都教育大学附属高等学校校長・京都教育大学 教育学部 教授
奈良女子大学大学院 家政学研究所 住環境専攻 修了。専門は家庭教育、住環境、建築環境。2005年より京都教育大学教育学部教授。2015年4月より附属高等学校校長を務める。研究室では指導学生とともに家庭科教材や、環境教育の教材を制作、HPにて公開している。http://kasei.kyokyo-u.ac.jp/sakakibara/kyozai/index.html

子どもたちの環境意識

環境問題、地球環境について考えたことはありますか？ 今ではかなり多くの方が、省エネやリサイクル活動に取り組んでいると思います。小学校の授業に「環境問題」という言葉が取り入れられてからは約17年が過ぎました。それ以前から、家庭科では、身近な生活の問題として、部分的にごみ・水・エネルギーについて考える授業はありましたが、子どもたちには実感しにくいところが、あったようです。

そんなとき、ヨーロッパの学校で活用されている「Kids 4 Energy」という環境教育教材に出会いました。子どもの日常生活のワンシーンが描かれたカードを見て、自分のライフスタイルについて考えることができる、というものです。ライフスタイルの異なる4家族の6つの生活場面から構成され、色別家族の同じ場面や自分たちの生活と比較することから、いろいろな発見ができます。エネルギーを多



用している家族、エコを意識した家族、自然を身近に活かす生活をしている家族、高度な技術に囲まれて暮らしている家族です。

これを日本の生活に置き換えて2009年に「e-カード」というものを作り、小中学校などの教育現場にお配りしました。当時の授業では「自然を身近に活かす生活をするのは、都会では無理」「エコを意識した生活もいやだ」という声が聞かれました。しかし、2011年の震災を経てからは「エネルギーを多用している家族はありえない」という声が変わってきたそうです。

めったにない経験、遭う必要のない体験ですが、子どもたちのエネルギーに対する価値観はすっかり変わりました。しかし、あれから4年。「計画停電」という言葉を覚えていらっしゃるでしょうか？ 悲しいかな、忘れてしまいうのも人間なのです。決してスティックな生活を続けることを促しているわけではありません。カードに描かれた絵を見ることで、自分たちの生活に気づく機会や、より今の環境にふさわしい生活について話すきっかけを作れたかったのです。

一人ひとりの力が地球を変える

以前は「環境問題」というと、例えば物を作っている企業が「公害」を起こしている、という生産者の問題でした。でも今は、生活者・消費者がどうしていきたいのか、ということが生産者、企業を動かす大きな力になって

います。だから、賢い消費者（グリーンコンシューマー※）になってかわつていかなければなりません。企業も環境に配慮した活動をしなければ、社会的に信用されなくなっています。それぞれ企業は努力し、規制遵守はもちろん環境認定を取得するなどの活動をしています。しかし、消費者側には規制はあまりありません。お金を出せば好きな生活ができます。一人ひとりが考える力を持つて、環境に配慮のある企業の、環境によい商品だから購入する、などという意思表示が大切です。実はそういう、生活者の視点を磨く場というのが今の家庭科教育でもあるのです。

それぞれが少し今の生活を、これでいいのかなと思うだけでも、みんながちよとずつ配慮することで、社会全体に影響を与えることができるのです。小さなことなので自分一人がしてもしかたがないな、と思ってしまうが、でも、実は小さな努力が世の中を動かしているということに気づいて、自分の目指す生活がどういうものか、どういう生活をしたいのか、選んでほしいと思います。選べる自由をしっかりと理解して、お金を払ってでもエネルギーをたくさん使った生活を送るのか、少し不便ではあるけれども自然と一緒に暮らすのがいいのか、ということ常々考えながら、生活してほしいと思っています。

みんなが社会全体、日本全体、地球全体という広い視野でどうあるべきか、これでもいいのかなと考えられるようになれば、地球環境

を含め世の中は自然と変わっていくのではないかな、と思います。

身の回りを見渡してみてください

少し固いお話になってしまいましたが、環境問題を考える、ということは特に資源の少ない日本では、自然界になるべく負担をかけない、ムダのない生活をする、ということだと思います。まず、お子さんの机の周りを見てみてください。ムダなものはありませんか？ 使いかけの消しゴムが何個もありませんか？ 少し使っただけで終わっているノートはありませんか？ それぞれ物を作るにはたくさんエネルギーが使われ、これらを捨てて処分するにもエネルギーは必要なのです。物を購入するときに一度、それは本当に必要？ と親子で問いかけてみてください。物を大切にすることが環境にもやさしい行動へとつながるのです。

※できるだけ環境に配慮した製品を購入することによって、社会を変えていこうとする消費者



▲「e-カード」は榊原先生の研究室のHPからダウンロードできます。